

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育実習Ⅰ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-川野 さちよ	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1. 「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ指導理論と演習内容を模擬授業において、他者とともに実践することができる</p> <p>2. 授業見学を通し、自らが注目する観点を見つけ、探究する姿勢を養う</p>	<p>学内外で開講されている日本語クラス(サークル・交流会等)の見学を行い、留学生対象の授業方法を学びましょう。30～45分の初級・中級の模擬授業は教壇実習のための練習の場です。創意工夫をし、しっかり取り組みましょう。 ※履修生の人数によって、毎年シラバスは変化します。初回の講義で人数を把握し調整する予定です。</p>
到達目標	<p>1. 初級レベルと中級レベル30～45分の模擬授業に伴う教案・教材作成を行い、授業の流れを理解・体得できる</p> <p>2. 模擬授業・授業見学をする過程において、履修生・学習者と共に学びあい、多角的な視点を取り入れたよりよい授業を創ることができる</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション (講義概要説明等)	シラバスを読む
	2	模擬授業・授業見学日調整・決定 授業見学の心構え	大学内外の授業見学とレポート作成
	3	教案作成について	大学内外の授業見学とレポート作成
	4	模擬授業について (初級・中級レベル)	大学内外の授業見学とレポート作成
	5	模擬授業1 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』	大学内外の授業見学とレポート作成
	6	模擬授業2 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』	大学内外の授業見学とレポート作成
	7	模擬授業3 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』	大学内外の授業見学とレポート作成
8	模擬授業4 『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』	大学内外の授業見学とレポート作成	
9	模擬授業5 『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』	大学内外の授業見学とレポート作成	
10	模擬授業6 中級レベル	大学内外の授業見学とレポート作成	
11	模擬授業7 中級レベル	大学内外の授業見学とレポート作成	
12	模擬授業8 中級レベル	大学内外の授業見学とレポート作成	
13	模擬授業9 中級レベル	最終レポート作成準備	
14	模擬授業10 中級レベル	最終レポート作成	
15	振り返り	最終レポート作成	
16	まとめ、レポート提出	授業の振り返り、最終レポート作成	
テキスト・参考文献・資料など	<p><予定> 参考テキスト 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』スリーエーネットワーク 『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』スリーエーネットワーク</p> <p>その他の参考文献リストは授業で紹介します。</p>		
学びの手立て	<p>授業見学では、何を観察するのか、前もって観察ポイントを決めておきましょう。観察するだけでなく、留学生のアシスタントとしても積極的に授業のお手伝いをお願いします。授業見学で学んだことを模擬授業に活かしましょう。</p>		
評価	<p>○授業参加度20%、提出物30%、模擬授業30%、最終レポート20%</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>○「日本語教材研究演習」、「日本語教授法演習Ⅰ」、「日本語教授法演習Ⅱ」、「日本語教育実習Ⅰ」を履修した後は、「日本語教育実習Ⅱ」へ進む。</p> <p>○学内の留学生、学内外の「外国につながる人」とコミュニケーションする機会を持つ。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育実習Ⅰ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	3年	emailで、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	日本語教員を養成する課程としての最初の実習授業です。実習Ⅱでは実際に外国人に日本語を教えますが、その前段階として、受講者が外国人学習者の役割を務める模擬授業をします。教師と学習者の両方の立場を経験することで、授業をより深く理解し次の実践につなげます。	授業の準備、実践、振り返り、を通して相手（学習者）の立場に立って考え、授業を組み立てる力を身につけましょう。また、これまで学んできた日本語教育関連科目、その他の学科の科目と、「実習」での取り組みを関連付けて考えられるようにしてください。
到達目標	①日本語学習の初級レベルの基本的な教室活動の流れを学び、実践できるようになる。 ②日本語学習の初級レベルの文型・文法を分析、直接法で導入することができるようになる。 ③学習者が何が分からないか、何ができないかをよく考え、教材研究を深めた上で授業を実践できるようになる。 ④日本語学習の初級レベルの基礎練習と会話練習をデザインすることができるようになる。 ⑤これらのために必要な教材を作ることができるようになる。 ⑥他者と自分の実践を客観的に捉え、分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	関連文献を読む
	2	初級の教室活動①直接法の導入と基本練習	課題作成
	3	初級の教室活動②会話練習	課題作成
	4	教案と授業例	関連文献を読む
	5	模擬授業準備	教材研究と模擬授業準備
	6	模擬授業①	教材研究と模擬授業準備
	7	模擬授業②	教材研究と模擬授業準備
	8	模擬授業③	教材研究と模擬授業準備
	9	模擬授業④	教材研究と模擬授業準備
	10	フィードバック	教材研究と模擬授業準備
	11	模擬授業⑤	教材研究と模擬授業準備
	12	模擬授業⑥	教材研究と模擬授業準備
	13	模擬授業⑦	教材研究と模擬授業準備
	14	模擬授業⑧	教材研究と模擬授業準備
15	フィードバック	期末課題の作成	
16	予備日		

テキスト・参考文献・資料など	模擬授業で用いる教科書 『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』スリーエーネットワーク その他、様々な日本語学習用の教科書を授業作りの参考にしてください。
----------------	---

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで模擬授業を担当することになります。お互い協力し合い、学び合う姿勢を持って取り組んでください。 ・留学生の日本語クラスの見学、日本語学校の見学などが課題となります。留学生や担当の先生、学校に機会を与えてもらっていることを自覚し、責任ある行動をとってください。 ・その他、留学生関係のイベントなどにも積極的に参加してください。
--------	---

評価	授業参加度 10% 課題 20% 模擬授業 40% (模擬授業当日だけでなく授業を作っていく過程も評価します) 模擬授業の評価 15% 学期末レポート 15%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本語教育実習Ⅱ」
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性 地域の日本語学校、あるいは国際的に活躍する日本語教員の育成を目指す。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育実習Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	4年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	大学内の外国人科目等履修生のための日本語の初級と中級レベルのクラスで教育実習を行う。また短期日本語研修生のための授業を実際に担当する。ニーズ調査方法の検討及び実施、プレイスメント・テストや習熟度テストの作成と実施、目標の設定とコースデザインの検討等がある。そして指導案作成の後、検討し、リハーサルを行い、実際に授業を担当する。さらに教材作成、評価方法も学ぶ。	いよいよ最後の科目となりました。本学に設置されている日本語クラス、あるいは、海外の協定校での3週間の実習は、貴重な体験となります。実習の流れを把握し、日本語教師として自信に繋がる授業を行いましょう。

到達目標	初級、あるいは、中上級クラスの留学生に実習を行う。実践することにより、日本語教師としての貴重な体験を得る。また、自らの日本語や日本文化（沖縄の文化）についての知識を確かめ、気付くことができる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	【対】オリエンテーション（講義概要説明等）、実習の順番決め	初級レベルの漢字について
	2	【対】日本語教育実習について	初級漢字補講クラスの担当
	3	【対】教案作成について	初級漢字補講クラスの担当
	4	【対】授業見学について	日本語・日本語教育に関する発表1
	5	【対】短期語学文化研修のための教材作成について	日本語・日本語教育に関する発表2
	6	【対】実習のための模擬授業1	日本語・日本語教育に関する発表3
	7	【対】実習のための模擬授業2、実習報告1	日本語・日本語教育に関する発表4
	8	【対】実習のための模擬授業3、実習報告2	日本語・日本語教育に関する発表5
	9	【対】実習のための模擬授業4、実習報告3	日本語・日本語教育に関する発表6
	10	【対】実習のための模擬授業5、実習報告4	日本語・日本語教育に関する発表7
	11	【対】実習のための模擬授業6、実習報告5	日本語・日本語教育に関する発表8
	12	【対】実習のための模擬授業7、実習報告6	日本語・日本語教育に関する発表9
	13	【対】実習のための模擬授業8、実習報告7	日本語・日本語教育に関する発表10
	14	【対】実習報告8	日本語・日本語教育に関する発表11
15	【対】全体のまとめ、学内日本語スピーチコンテストについて		
16	【対】日本語教育実習の振り返り		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 配布資料と参考文献を中心に講義を行う。 日本語教育実習Ⅰで示した参考文献と以下を活用する。『わざ 光る授業への道案内』今村 和宏(アルク)、 『心と心がふれ合う 日本語授業の創造』縫部 義憲(歴々社)、『日本語教育の実習 理論と実践』岡崎 敏雄他(アルク)
-------	--

学びの手立て	今まで学んできた理論を十分に活かし、教壇実習を行うクラスの見学を重ねて行きましょう。指導案・教材の作成は、担当教員のチェックやアドバイスを受けましょう。準備や模擬授業を十分に行えば、実習はうまく行きます。その後、教師や見学者からのコメント・アドバイス等を受け、振り返り(内省)、次回の参考にしましょう
--------	--

評価	総合的に評価する。出席率、授業見学(10%)、チューター(10%)、そして実習の準備(教案作成等)から教材作成(30%)、その後教壇実習(50%)等、全てが評価の対象となります。
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本語教師になるための全ての課程を修了しました。おめでとうございます。次は、地域、県外、あるいは、海外の日本語教師として、活躍しましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

学習者、学習者の目的、学習内容、学習方法を、日本語教師として分析できるだけでなく、自文化・多文化への理解も深めていける。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教育実習Ⅱ	前期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	4年	Eメール、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>学内の留学生に対する日本語クラス、夏期日本語研修プログラムで教壇実習を行う。</p> <p>教壇実習だけでなく、ニーズ調査、プレイスメントテスト、習熟度テスト、教材作成、コースデザインなど、幅広く経験を積む。</p>	<p>・教壇実習は、学習者の貴重な時間を使わせてもらうことをしっかり認識して、責任ある言動をとってください。</p> <p>・お互いに学び合う姿勢を持って、実習生同士、日本語学習者から多くものを学んでください。</p> <p>・準備と練習が足りないことはあっても、多すぎることはありません。しっかり準備しましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を見学し、授業の意図や意味、学習者の状況を把握することができる。 ・「初級」「中級」「上級」クラスの違いを理解し、授業を作ることができる。 ・初級クラスの「漢字・発音」クラスの指導担当をする。 ・夏期日本語研修の「沖縄事情」も実習に含まれる。 ・教務作業に関わり、教壇での授業以外の日本語教師の業務を体験する。 ・日本語教育機関を訪問・見学し、日本語教育の現場についての理解を深める。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	関連文献を読む
	2	学内日本語クラスと、夏期プログラムでの実習について	関連文献を読む
	3	初級・中級・上級の指導（会話・聴解）	関連文献を読む
	4	初級・中級・上級の指導（語彙・作文）	関連文献を読む
	5	初級・中級・上級の指導（文法）	関連文献を読む
	6	評価法	関連文献を読む
	7	模擬授業の準備	教材研究と授業計画の作成
	8	模擬授業と教壇実習報告①	教材研究と授業計画の作成
	9	模擬授業と教壇実習報告②	教材研究と授業計画の作成
	10	模擬授業と教壇実習報告③	教材研究と授業計画の作成
	11	模擬授業と教壇実習報告④	教材研究と授業計画の作成
	12	模擬授業と教壇実習報告⑤	教材研究と授業計画の作成
	13	模擬授業と教壇実習報告⑥	教材研究と授業計画の作成
	14	模擬授業と教壇実習報告⑦	教材研究と授業計画の作成
15	模擬授業と教壇実習報告⑧	教材研究と授業計画の作成	
16	まとめ	期末課題の作成	

テキスト・参考文献・資料など

『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版本冊』『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』スリーエーネットワーク

授業を作る際は、様々な日本語学習用の教科書や資料を参考にすること。その他、適宜授業の中で紹介する。

学びの手立て

- ・今まで学んできたことを十分に生かして、教壇実習に臨みましょう。
- ・担当教員としっかり相談しましょう。
- ・準備と練習が教壇実習を成功に導きます。
- ・授業見学や学外の活動への参加も課題となります。
- ・教壇実習を担当するクラスには、1カ月通い続けクラスの様子、そのクラスでの学習内容などを確認し、クラスの担当教員と教壇実習の授業内容を相談すること。

評価

模擬授業と教壇実習40% (当日だけでなく授業を作る過程も評価の対象とします)

提出物25%

期末課題25%

授業参加度10%

学びの継続

次のステージ・関連科目

「海外日本語教育実習」海外日本語教員インターン

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教材研究演習	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-元山 由美子	2年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい 日本語教育用教材の基礎知識を学び、教材全体を体系的に把握し比較分類する。また個々の教材の分析などを通して、実際の現場でよりよい教材の活用ができることを目標とする。具体的には、「教材論の体系的把握」「学習者と教材」「コースデザインと教材」「教科書と副教材」「教材の比較分類」「教材の具体的使用法」等	メッセージ 留学生が使用している教材を積極的に図書館や書店で手に取って見てみましょう。教材は、皆さんの周りにたくさんあります。創意工夫をし、効果的な教材を使用した授業を行えるようにしましょう。
	到達目標 日本語教育に必要な「教材」に関する専門的な知識・能力を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション（講義概要紹介等）	書籍の調査
	2	日本語教育の現状、日本語教育とは何か、教材とは何か。	「小道具活用法」の発表の準備
	3	学習者・日本語教師・教授法・教材の多様化について。発表1「私の小道具活用法」	「小道具活用法」の発表の準備
	4	教材の比較分類表の作成について。発表2「私の小道具活用法」	「小道具活用法」の発表の準備
	5	教科書と副教材の全体分析と課分析について。発表3「私の小道具活用法」	「教材分析」の発表の準備
	6	発表4「教材の比較分類表」総合型教材（初級・中級・上級）	「教材分析」の発表の準備
	7	発表5「教材の比較分類表」技能型教材（読解・聴解・文章表現・口頭表現）	「教材分析」の発表の準備
	8	発表6「教材の比較分類表」言語要素別教材（文字・音声・文法）	「教材分析」の発表の準備
	9	発表7「教材の比較分類表」対象別・目的別教材、沖縄事情・日本事情	「教材分析」の発表の準備
	10	発表8「教材の比較分類表」視聴覚教材（絵・映像・ゲーム等）	「課分析」の発表の準備
	11	発表9『みんなの日本語Ⅰ』課分析	「課分析」の発表の準備
	12	発表10『みんなの日本語Ⅰ』課分析	「課分析」の発表の準備
	13	発表11『みんなの日本語Ⅱ』課分析	「課分析」の発表の準備
	14	発表12『みんなの日本語Ⅱ』課分析	「課分析」の発表の準備
15	発表13『みんなの日本語Ⅱ』課分析	試験勉強	
16	まとめのテスト	授業の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 『みんなの日本語 初級Ⅰ 第2版』（本冊）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語 初級Ⅱ 第2版』（本冊）スリーエーネットワーク プリント使用。必要に応じて資料等を配布。 『日本語教材概説』 河原崎 幹夫他著 北星道書店 『日本語教科書ガイド』 国際交流基金 『日本語教授法』 石田敏子著 大修館書店 『日本語教育の教材』 岡崎 敏雄著 アルク		
	学びの手立て 留学生が使用している教材・教具をたくさん見て行きましょう。本屋や図書館にも足を運び、どのようなものが使用されているのか、実際に手に取って見てみましょう。全体的に分析した後、課ごとの構成、使用されている文法や語彙、会話等がどのようになっているのか、調べてみましょう。		
	評価 総合的に評価しますが、特に平常点を重視します。よって出席率、提出物(30%)、担当課題の口頭発表(40%)、授業への参加状況などが重視されます。さらに期末テスト(30%)の評価が加わります。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本語教材研究演習」を履修した後は、「日本語教授法演習Ⅰ」へ進みましょう。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教材研究演習	前期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	奥山 貴之	2年	Eメール、授業後教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 日本語教員の養成の入門科目です。まず、日本語教育について概要を理解しましょう。主に初級教科書を分析し、学習者が何をどのように学ぶかイメージを持てるようになります。	メッセージ 母語話者にとって当たり前の「日本語」を、非母語話者がどのように学ぶのか、相手の立場に立って考えられるようになります。
	到達目標 ・日本語教育について、学習者・学習目的・学習方法・テキストなどの概要が分かる。 ・「日本語能力」について、様々な視点があることを知る。 ・日本語母語話者に対する「国語教育」と、非母語話者に対する「日本語教育」の違いがわかる。 ・日本語教育で使われる教科書の概要が分かる。 ・教材分析の方法を学び、初級教科書の分析ができるようになる。	

学びの準備	到達目標 ・日本語教育について、学習者・学習目的・学習方法・テキストなどの概要が分かる。 ・「日本語能力」について、様々な視点があることを知る。 ・日本語母語話者に対する「国語教育」と、非母語話者に対する「日本語教育」の違いがわかる。 ・日本語教育で使われる教科書の概要が分かる。 ・教材分析の方法を学び、初級教科書の分析ができるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	関連文献を読む
	2	日本語学習者と日本語教育機関	復習
	3	留学生に対する日本語教育	同上
	4	児童・生徒に対する日本語教育	同上
	5	ビジネス日本語	同上
	6	地域の日本語教育	同上
	7	日本語教育と国語教育	同上
	8	日本語教育と日本事情	同上
	9	教材分析の視点と方法	復習と教材研究
	10	教材分析①	復習と教材研究
	11	教材分析②	復習と教材研究
	12	教材分析③	復習と教材研究
	13	教材分析④	復習と教材研究
	14	教材分析⑤	復習と教材研究
15	教材分析⑥	復習と教材研究	
16	期末テスト	総復習	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『みんなの日本語初級Ⅰ 第2版本冊』『みんなの日本語初級Ⅱ 第2版本冊』スリーエーネットワークを分析対象の教科書とする。参考文献は適宜授業の中で紹介する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て ・だれが、なにを、どのように、学ぶのか、「母語としての日本語」という枠を取り払って考えましょう。 ・課題や発表は「教材分析」以外にもあります。 ・学内の留学生と交流するイベントや授業に積極的に参加してください。 ・自分の外国語の学習についてもよく考えて、日本語教育について考えるヒントにしましょう。 ・グループやペアでの作業もあります。お互いに貢献し合う気持ちを持って、学び合いましょう。
-------	--

学びの実践	評価 期末試験 (35%) ・発表 (20%) ・課題 (30%) ・平常点 (15%)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ」「日本語教育実習Ⅰ・Ⅱ」
-------	--

※ポリシーとの関連性 地域の日本語学校、あるいは国際的に活躍する日本語教員の育成を目指す。

[/ 演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教授法演習 I	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	尚 真貴子	2年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	外国語としての日本語教育がどのように始まり、どのような経緯を辿ったか概観した後、現在国内外で広く用いられている教授法・指導法がどのような言語理論、学習理論、教授理論に基づいているか比較検討する。	外国教授法の変遷を学ぶことにより、いろいろな教授法を取り入れ、教育の効果を図りましょう。多様化が進む日本語教育では様々な教育が求められます。日本語教師はできるだけ多くの教授法を研究し、状況によって使い分ける工夫ができるようになります。
到達目標	さまざまな種類の外国語教授法を知る。日本語教育の始まりから現在に至るまでの歴史がわかる。日本語の音声の特徴とその指導方法、日本の文字とその指導方法について、どのようになっているのか調べ、簡単な模擬授業が行えるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	【対】オリエンテーション（講義概要説明等）、発表の順番決め	各国の日本語教育の現状の調査
	2	【対】日本語教育の現状、「第1章 日本語教育の特色」	日本、中国、台湾
	3	【対】「第2章母語の学習と外国語」（母語の役割、誤用分析と中間言語、異文化理解教育）	韓国、マカオ
	4	【対】発表1「第3章外国教授法のいろいろ」翻訳法、直接法	インドネシア、ベトナム
	5	【対】発表2「第3章外国教授法のいろいろ」グアン、ベルリッツ、パーマー、オーディオリンガル	カンボジア、タイ、インド
	6	【対】発表3「第3章外国教授法のいろいろ」アーミー・メソッド、TPR	フィリピン、香港、シンガポール
	7	【対】発表4「第3章外国教授法のいろいろ」サイレント・ウェイ、CLL	オーストラリア、ニュージーランド
	8	【対】発表5「第3章外国教授法のいろいろ」サジェスト・ペディア、ナチュラル・アプローチ	アメリカ、カナダ
	9	【対】発表6「第3章外国教授法のいろいろ」コミュニカティブ・アプローチ、GDM	フランス、ドイツ
	10	【対】発表7「第3章外国教授法のいろいろ」VT法、ACTFL・OPI	オランダ、スペイン
	11	【対】発表8「第3章外国教授法のいろいろ」異文化トレーニング、シャドーイング	メキシコ、ペルー
	12	【対】発表9「第4章日本語教育の歴史」	アルゼンチン、ボリビア
	13	【対】発表10「第5章日本語教育の目標」	ブラジル他
14	【対】発表11「第7章日本語の音声と特徴とその指導」	復習	
15	【対】発表12「第8章日本の文字とその指導」	試験勉強	
16	【対】まとめの試験	授業の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	(1) 石田 敏子『改訂版 日本教授法』大修館書店 (2) 『みんなの日本語 I 第2版』（本冊）スリーエーネットワーク 参考図書リストをクラスで配布します。		
	学びの手立て		
	様々な外国の教授法を日本語教育にどのように活かせるのか、長所や短所を見つけましょう。また、日本語教育の現在に至るまでの歴史的背景を学びましょう。その他、海外の日本語教育の現状と課題についても調べていきましょう。		
	評価		
	総合的に評価する。出席率+授業への参加度+発表（40%）+レポート（30%）+期末テスト（30%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本語教材研究演習」、「日本語教授法演習 I」を履修した後は、「日本語教授法演習 II」へ進みましょう。
-------	--

※ポリシーとの関連性

日本語及び日本語教育への理解、コミュニケーション能力を身につけ、地域社会や国際社会で活躍できる人材となることを目指す。

[/演習]

科目 基本 情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教授法演習Ⅰ	後期	金 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石原 嘉人	2年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	日本語教授法演習Ⅱでは、外国語としての日本語教育の特性を紹介したのち、日本語教育の歴史的背景を概観する。そして主要な教授法とその基盤となる第二言語習得理論に触れ、各教授法における教師の役割・指導技術・具体的な手順などを比較しつつ、それぞれの長所・短所を実践的に見極める。また、外国語としての日本語の音声・表記・語彙などの特徴を捉える。	日本語教育の基盤となる知識や方法論を実践的に学んでいくため、課題や発表などに積極的に取り組むことが求められる。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育の歴史を概観し、現在の日本語教育のあり方や目標などを理解する いわゆる外国語教授法について調べ、その教授法の理念と実際の指導法について理解することができるようになる 日本語学習者の発音の問題点に気づき、その指導法について学ぶ 文字表記や語彙習得など、日本語学習者の課題についての基本的な知識を得る 	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	予習
	2	日本語学習者と習得レベルの段階的評価	予習
	3	外国語教授法のいろいろ①	発表とデモンストレーションの準備
	4	外国語教授法のいろいろ②	発表とデモンストレーションの準備
	5	外国語教授法のいろいろ③	発表とデモンストレーションの準備
	6	外国語教授法のいろいろ④	発表とデモンストレーションの準備
	7	外国語教授法のいろいろ⑤	調査と発表
	8	日本語教育の歴史①	調査と発表
	9	日本語教育の歴史②	予習
	10	日本語の音声の特徴と指導法①	予習
	11	日本語の音声の特徴と指導法②	予習
	12	日本語の文字の特徴と指導法①	予習
	13	日本語の文字の特徴と指導法②	予習
14	日本語の語彙の特徴と指導法①	類似の語彙の使い分け	
15	日本語の語彙の特徴と指導法②	類似の語彙の使い分け	
16	まとめと最終試験	総復習	
テキスト・参考文献・資料など	テキスト 参考書 『日本語教授法入門』 研究社 『新・はじめての日本語教育 1 日本語教育の基礎知識』 アスク 『新・はじめての日本語教育 2 日本語教授法入門』 アスク		
学びの手立て	基本図書をしっかり読み込み、基礎知識を蓄積してください。そして、学内の留学生をはじめ実際に日本語を学んでいる学習者と接して、日本語教育の実情を知り、自分なりのイメージを具体化させてから、授業に臨んでください。 履修期間中、本講義の時間帯以外に学内で行われている実際の日本語の授業を見学したり、作文を指導したり、会話の練習相手を務めるなどの実践経験を持つよう、指導します。そして、その経験から得た知見を簡単なレポートとして提出していただきます。		
評価	授業態度（参加度・貢献度）、出席率、課題への取り組み、発表、提出物、最終試験から総合的に判断する。 評価のうちわけは、以下のとおり： 最終試験 80% 発表及び提出物 20%		

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 次のステップでは日本語の文法など具体的な指導方法に踏み込んでいくので、この授業でしっかり基礎的な知識を身につけてください。
-----------------------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教授法演習Ⅱ	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-川野 さちよ	3年	授業の前後に受け付けます。	

学びの準備	ねらい 「日本語教授法」という一つの側面から、「日本語教育」とは何かを問い続ける。他者との実践を通じわたしの「日本語教育観」を更新し続ける。	メッセージ 第一言語、第二言語に関わらず、人はどのようにことばを学んでいるのか、日々の生活から考えてみましょう。
	到達目標 1. 言語学習経験を振り返り、ことばを学ぶ目的、学習スタイルを言語化することができる 2. 日本語教育の目的・対象・場所等が異なる多様な日本語教育の場を理解し、各々の場に適したカリキュラム・シラバス・教え方を他者と共に考え、創ることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、自己紹介	シラバスを読む
	2	なぜ、いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どうやって日本語を教えるのか①	グループ発表日の確認・調整
	3	なぜ、いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どうやって日本語を教えるのか②	日本語教育の目的を振り返る
	4	「語彙を学ぶ」「語彙を教える」ことについて	グループ発表準備
	5	「文法を学ぶ」「文法を教える」ことについて	グループ発表準備
	6	●「聞ける」とは何か ●「聞くことを教える」について①	第6～7週目：「聞く」の観点から
	7	●「聞ける」とは何か ●「聞くことを教える」について②	第二言語学習を意識化する
	8	●「話せる」とは何か ●「話すことを教える」について①	第8～9週目：「聞く」の観点から
9	●「話せる」とは何か ●「話すことを教える」について②	第二言語学習を意識化する	
10	●「読める」とは何か ●「読むことを教える」について①	第10～11週目：「聞く」の観点から	
11	●「読める」とは何か ●「読むことを教える」について②	第二言語学習を意識化する	
12	●「書ける」とは何か ●「書くことを教える」について①	第12～13週目：「聞く」の観点から	
13	●「書ける」とは何か ●「書くことを教える」について②	第二言語学習を意識化する	
14	「評価をする」「評価をされる」ことについて	日常で起こる「評価」を考える	
15	シラバス、カリキュラムについて	言語学習の枠を考える	
16	今までの振り返り、最終レポート	授業の振り返り	
実践	テキスト・参考文献・資料など 参考テキスト (1) 石田敏子(2002)『改訂新版日本語教授法』大修館書店 (2) 坂本正・川崎直子・石澤徹[監修](2017)『日本語教育への道しるべ 第3巻ことばの教え方を知る』凡人社 その他の参考文献のリストはクラスで配布する。		
	学びの手立て 1. 自らも第二言語、第三言語を学ぶ機会を多くつくり、「ことばを学ぶこと」を振り返りながら自分自身が「いい」と考える学習環境をまとめてみましょう。 2. 第二言語として日本語を学んでいる人たちと話してみましょう。		
	評価 ・授業参加度 ……30% ・グループ発表 ……30% ・提出物 ……20% (授業後の振り返りシート:いかに考えたかを観点に評価します) ・最終レポート ……20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本語教育実習Ⅰ」、「日本語教育実習Ⅱ」へと進む。
-------	---

※ポリシーとの関連性

この科目の到達目標は、日本語教授法演習Ⅰと併せ、日本語教育の現場における網羅的な知見を得ることである。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本語教授法演習Ⅱ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-石原 嘉人	3年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい 日本語教授法演習Ⅰに引き続き、種々の日本語教授法と指導法の理論と実践について考察する。加えてカリキュラム構築の留意点とコース・デザインの方法についても論じる。	メッセージ 日本語教育に携わって30年の経験をもとに、実践的な授業を行います。
	到達目標 傍観者としてでなく、実践者として語学の指導における要点を身につけることができるようになる。具体的な教授項目について知見を得るだけでなく、学習者のエラーの原因を探る、アプローチの方法や心構えについて様々なアイデアを提起して試行錯誤するなど、実践を通して身につけるような知見を得ることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文法と語彙の関係について概説	語彙の分類の実践
	2	日本語の語彙とその指導	語義の素性分析
	3	日本語の語彙とその指導	文法項目の説明（1）
	4	文法の指導と様々な練習スキル	文法項目の説明（2）
	5	文法の指導と様々な練習スキル	問題文の作成
	6	音声と音韻	演習Ⅰで学んだ内容の復習
	7	アクセント、イントネーション、プロミネンスなど	演習Ⅰで学んだ内容の復習
8	話し方の指導	会話教材作成	
9	日本事情・沖縄事情の伝え方	予習	
10	読解の指導	読解教材作成	
11	読解の指導	予習	
12	書き方の指導	予習	
13	日本語教育における評価法	予習	
14	異文化間コミュニケーション	異文化体験を内省する	
15	カリキュラムのたて方・日本語教師の心構え	各自の意見を言語化する	
16	期末テスト	総復習	
	テキスト・参考文献・資料など		
	【テキスト】 適宜コピーを配布する		
	【参考文献・その他】 姫野伴子ほか『日本語教育学入門』 研究社 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法』 くろしお出版など		
	学びの手立て		
	基本図書をしっかり読み込み、基礎知識を蓄積してください。そして、学内の留学生をはじめ実際に日本語を学んでいる学習者と接して、日本語教育の実情を知り、自分なりのイメージを具体化させてから、授業に臨んでください。 履修期間中、本講義の時間帯以外に学内で行われている実際の日本語の授業を見学したり、作文を指導したり、会話の練習相手を務めるなどの実践経験を持つよう、指導します。そして、その経験から得た知見を簡単なレポートとして提出していただきます。		
	評価		
	聴解指導、読解指導、会話指導などに関する理論を学んだ上で、各自で自主教材を作成し、その妥当性を検証する。評価のうちわけは、以下のとおり： 最終試験 80% 提出物 20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1) 履修上の注意としては、「日本語表現法演習Ⅰ&Ⅱ」「日本語現代語文法Ⅰ&Ⅱ」「日本語教材研究演習」等を履修済みのこと。 (2) 受講終了後には、地球市民として自立し専門的に活躍していくための豊かな教養、言語表現力を身につけていくことを目標してください。
-------	---